

## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月29日

上場取引所 東大

上場会社名 JSR株式会社

 コード番号 4185 URL <http://www.jsr.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 小柴 満信

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長

(氏名) 小島 昌尚

TEL 03-6218-3517

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日

平成24年11月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	182,574	7.2	17,057	△12.4	19,748	△3.4	13,622	17.3
24年3月期第2四半期	170,341	0.0	19,468	△3.0	20,433	△4.9	11,613	△12.8

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 10,598百万円 (13.2%) 24年3月期第2四半期 9,361百万円 (△4.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	56.47	56.35
24年3月期第2四半期	48.14	48.06

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	453,683	293,479	63.5
24年3月期	430,692	282,357	65.2

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 288,049百万円 24年3月期 280,955百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
25年3月期	—	17.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	378,000	8.0	36,000	0.1	40,500	△2.6	28,000	6.0	116.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) JSR BST Elastomer Co., Ltd. 、除外 1社 (社名)

(注) 詳細は添付資料 P.5 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は添付資料 P.5 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、株式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料 P.5 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	255,885,166 株	24年3月期	255,885,166 株
25年3月期2Q	14,636,816 株	24年3月期	14,645,692 株
25年3月期2Q	241,244,756 株	24年3月期2Q	241,240,087 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料 P.5 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

平成24年10月29日(月)に、決算説明資料を当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(6) セグメント情報等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から同年9月30日）の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、全体として、各国の各種政策の効果により弱いながらも回復基調が続きましたが、南欧諸国の債務危機が続く欧州ユーロ圏のマイナス成長に加え、中国において輸出の伸びの鈍化により景気拡大のテンポが弱まるなど、第2四半期の後半にかけて不透明感が増す状況で推移しました。

日本経済は、震災復興需要の下支えがあったものの、個人消費の停滞、輸出の減速により、景気は弱めの動きで推移しました。円高の長期化、原油価格の高止まり、世界経済の減速による輸出の弱さから、厳しい事業環境が依然として続いております。

当社グループの主要な需要業界におきましては、自動車の国内生産は震災影響からの回復とエコカー補助金の効果により好調に推移いたしましたが、自動車タイヤの国内生産は、特に欧州向け輸出の不振により、前年同期を下回る水準で推移しました。半導体市場は、スマートフォンや多機能携帯端末などの需要拡大が見られたものの、パソコン向けのDRAM需要が低迷し、前年同期並みに留まりました。フラットパネル・ディスプレイの生産については、第2四半期は主要パネルメーカーの稼働率に回復傾向が見えますが、低い伸びに留まっています。

原料面では、ナフサ価格が、第2四半期は下落したものの総じて高い水準が続いております。

このような状況のもと、当社は2020年のありたい姿の実現に向けた中期経営計画「JSR20i3」の2年目として、石油化学系事業（エラストマー事業、合成樹脂事業）では、技術的に優位性を持つ製品の能力増強・拡販に注力するとともに、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定に努めました。情報電子材料を中心とした多角化事業では、グローバルマーケットでの最先端材料の拡販に注力いたしました。また、収益力強化プロジェクト「E-100plus」を推進し、全グループ企業において継続的なコスト削減および生産性向上等の収益改善に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,825億74百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益170億57百万円（同12.4%減）、経常利益197億48百万円（同3.4%減）、四半期純利益136億22百万円（同17.3%増）となりました。

（単位：百万円）

区分	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
売上高						
エラストマー事業	86,223	50.6%	96,007	52.6%	9,783	11.3%
合成樹脂事業	23,861	14.0%	25,760	14.1%	1,898	8.0%
多角化事業	60,256	35.4%	60,807	33.3%	550	0.9%
合計	170,341	100.0%	182,574	100.0%	12,233	7.2%
国内売上高	95,592	56.1%	98,176	53.8%	2,584	2.7%
海外売上高	74,749	43.9%	84,397	46.2%	9,648	12.9%
区分	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	比率
営業利益	19,468	11.4%	17,057	9.3%	△2,410	△12.4%
経常利益	20,433	12.0%	19,748	10.8%	△684	△3.4%
四半期純利益	11,613	6.8%	13,622	7.5%	2,008	17.3%

## (部門別の概況)

## (エラストマー事業部門)

## ① 合成ゴムの販売状況

スチレン・ブタジエンゴムやポリブタジエンゴムなどの汎用合成ゴムの国内販売につきましては、当第2四半期連結累計期間の国内タイヤ生産が低調に推移したため販売数量は前年同期を下回りましたが、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定により、売上高は前年同期並みでした。ニトリルゴム、エチレン・プロピレンゴムなどの機能性特殊ゴムにつきましては、国内自動車生産の回復により、販売数量・売上高とも前年同期を上回りました。

輸出につきましては、汎用合成ゴムは、前年度に能力増強を実施した溶液重合スチレン・ブタジエンゴム(S-SBR)の拡販を中心に、販売数量・売上高とも前年同期を大幅に上回りました。機能性特殊ゴムは、前年同期の震災影響から回復し、販売数量・売上高とも前年同期を上回りました。

生産面では、四日市工場のS-SBRの能力増強工事(2万5千トン/年)が2011年度下期に完工し、現在フル稼働しております。これに続き、タイに設立した合弁会社において5万トン/年のS-SBRの工場建設が進行中であり(2013年6月稼働予定)、さらに第2期5万トン/年規模の工場増設も視野に入れております。グローバルでS-SBRの供給体制をより強固なものとし、事業の拡大を進めてまいります。

## ② エマルジョンの販売状況

主力製品の紙加工用ラテックスにつきましては、製紙メーカーの生産が震災影響から回復し、販売数量・売上高とも前年同期を上回りました。

収益面では、主要原材料価格が高い水準で推移し、収益の圧迫要因となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のエラストマー事業部門の売上高は前年同期比11.3%増の960億7百万円、営業利益は前年同期比24.5%減の78億49百万円となりました。

(エラストマー事業)

(単位:百万円)

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	86,223	96,007	9,783	11.3%
営業利益	10,391	7,849	△2,541	△24.5%
営業利益率	12.1%	8.2%	△3.9%	—

## (合成樹脂事業部門)

国内販売につきましては、自動車用途において、震災影響からの回復にエコカー補助金の効果が加わり、販売数量・売上高とも前年同期を上回りました。海外販売につきましても、自動車用途が堅調で、販売数量・売上高とも前年同期を上回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の合成樹脂事業部門の売上高は前年同期比8.0%増の257億60百万円、営業利益は前年同期比148.3%増の14億33百万円となりました。

(合成樹脂事業)

(単位:百万円)

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	23,861	25,760	1,898	8.0%
営業利益	577	1,433	856	148.3%
営業利益率	2.4%	5.6%	3.1%	—

## (多角化事業部門)

## ① 半導体製造用材料の販売状況

半導体市場は、スマートフォンや多機能携帯端末向けが拡大したものの、パソコン需要の低迷により総じて低調に推移したため、半導体製造用材料全体の売上高は前年同期並みに留まりました。その中で、最先端プロセスに採用されているA r F（フッ化アルゴン）液浸レジストや多層材料は、競争力のある最新技術をもとにグローバル市場で拡大し、販売数量を伸ばしました。

## ② フラットパネル・ディスプレイ（F P D）用材料の販売状況

主力製品である液晶ディスプレイ（L C D）用材料は、パネルメーカーの稼働率が第2四半期にやや持ち直しましたが、総じて低い稼働率に留まり、売上高は前年同期を下回りました。

日本・韓国・台湾の3極での技術サービス体制強化を目的として韓国および台湾の子会社に建設を進めてきたクリーンルームを備えた研究開発センターは、昨年度中に完成いたしました。今後これらの活用に努め、グローバルマーケットでのいっそうの事業拡大に向け注力してまいります。

## ③ 戦略事業・その他の販売状況

精密材料・加工事業につきましては、耐熱透明樹脂「アートン®」が、市場が拡大しているスマートフォンや多機能携帯端末向けの薄型偏光板用途に採用され、売上高は前年同期を大幅に上回りました。あわせて、これらモバイル用途向けのタッチパネル用透明導電膜（I T O）フィルムも売り上げを伸ばしました。

環境・エネルギー分野では、J Mエナジー株式会社において、扁平角缶型リチウムイオンキャパシタ製造設備及び評価棟・安全試験棟が昨年度に完成し、本格的な生産体制が整いました。移動体用途をはじめとする用途展開を進め、グローバルに事業拡大を図ってまいります。

メディカル材料につきましては、分散していたメディカル材料関係の開発、製造、販売機能を集約した「J S R ライフサイエンス株式会社」を設立し、2012年4月より営業を開始いたしました。また、中国に設立した診断薬事業の合弁会社「捷和泰（北京）生物科技有限公司」の本社工場も同じく2012年4月に完成し、中国における診断薬事業のより一層の拡大を目指して活動を開始しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の多角化事業部門の売上高は前年同期比0.9%増の608億7百万円、営業利益は前年同期比8.5%減の77億74百万円となりました。

(多角化事業)

(単位：百万円)

区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	60,256	60,807	550	0.9%
営業利益	8,499	7,774	△724	△8.5%
営業利益率	14.1%	12.8%	△1.3%	—

## (2) 連結業績予想に関する定性的情報

2012年度下期の世界経済は、欧州の景気低迷の長期化に加え、中国の経済成長の鈍化傾向が見られる一方で、米国での雇用環境の改善や住宅着工の持ち直しなど景気回復のサインも見られ、方向感の定まらない不透明な状況が継続すると予想されています。

わが国の経済も、復興需要の下支えはあるものの、世界経済減速が輸出に及ぼす影響やエコカー補助金終了の影響が懸念され、厳しい状況がさらに続くものと予想されます。

石油化学系事業では、国内自動車生産の減少や自動車タイヤ生産の低調な推移が見込まれますが、競争力の高い製品を中心に拡販を図ってまいります。特に低燃費タイヤの需要増に対しては、国内外の供給体制のさらなる強化を進め、グローバルに事業を展開してまいります。

多角化事業につきましては、半導体製造用材料事業では、最先端リソグラフィ材料など新製品投入を進め、事業の拡大を図ってまいります。フラットパネル・ディスプレイ用材料事業では、新規配向膜などにおいてグローバルに事業の拡大を図ってまいります。

将来大きな成長が期待される戦略事業は、事業の立ち上げを最重点課題に掲げ、早期の事業拡大に向けて取り組んでまいります。

また、収益力強化プロジェクト「E-100plus」の取り組みに注力し、全グループ企業において収益の改善に努めてまいります。

通期の連結業績見通しにつきましては、第2四半期連結累計期間の業績ならびに足元の経営環境を踏まえて、現時点においては売上高3,780億円（前期比8.0%増）、営業利益360億円（同0.1%増）、経常利益405億円（同2.6%減）、当期純利益280億円（同6.0%増）を見込んでおります。

なお、下期の為替相場は78円/\$、ナフサ価格は52,000円/KLと想定しております。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間より、JSR BST Elastomer Co., Ltd.の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更に伴う、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,490	31,617
受取手形及び売掛金(純額)	89,193	88,630
有価証券	69,496	83,924
たな卸資産	64,946	70,758
その他	48,296	39,370
流動資産合計	292,423	314,301
固定資産		
有形固定資産	80,504	86,410
無形固定資産	5,166	5,608
投資その他の資産	52,597	47,363
固定資産合計	138,269	139,382
資産合計	430,692	453,683
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	83,077	93,627
短期借入金	15,183	15,041
未払法人税等	6,330	5,491
その他	25,286	24,572
流動負債合計	129,877	138,732
固定負債		
退職給付引当金	13,966	14,527
環境対策引当金	2,700	2,582
その他	1,789	4,360
固定負債合計	18,457	21,471
負債合計	148,335	160,204
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,320	23,320
資本剰余金	25,179	25,179
利益剰余金	263,100	272,801
自己株式	△27,321	△27,304
株主資本合計	284,279	293,996
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,217	2,543
為替換算調整勘定	△7,541	△8,490
その他の包括利益累計額合計	△3,323	△5,947
新株予約権	655	702
少数株主持分	746	4,728
純資産合計	282,357	293,479
負債純資産合計	430,692	453,683



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	170,341	182,574
売上原価	124,787	137,161
売上総利益	45,554	45,413
販売費及び一般管理費	26,085	28,355
営業利益	19,468	17,057
営業外収益		
持分法による投資利益	1,807	2,707
その他	783	928
営業外収益合計	2,591	3,636
営業外費用		
為替差損	1,033	367
その他	591	577
営業外費用合計	1,625	945
経常利益	20,433	19,748
特別損失		
投資有価証券評価損	—	305
災害による損失	815	—
特別損失合計	815	305
税金等調整前四半期純利益	19,618	19,443
法人税等	7,973	5,811
少数株主損益調整前四半期純利益	11,645	13,631
少数株主利益	31	9
四半期純利益	11,613	13,622

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	11,645	13,631
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△536	△1,662
為替換算調整勘定	△2,003	△1,470
持分法適用会社に対する持分相当額	256	99
その他の包括利益合計	△2,283	△3,033
四半期包括利益	9,361	10,598
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,326	10,817
少数株主に係る四半期包括利益	35	△218

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	19,618	19,443
減価償却費	8,264	8,595
受取利息及び受取配当金	△336	△408
支払利息	74	67
持分法による投資損益(△は益)	△1,807	△2,707
投資有価証券評価損益(△は益)	—	305
売上債権の増減額(△は増加)	△5,178	93
たな卸資産の増減額(△は増加)	△9,161	△6,226
仕入債務の増減額(△は減少)	3,507	10,982
その他	1,306	1,950
小計	16,287	32,096
利息及び配当金の受取額	704	804
利息の支払額	△70	△61
法人税等の支払額	△9,035	△6,626
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,886	26,212
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	6,499	0
有価証券の増減額(△は増加)	△5,500	△21,500
固定資産の取得による支出	△5,965	△12,302
関係会社株式の取得による支出	△1,183	—
貸付けによる支出	△982	△764
貸付金の回収による収入	812	1,621
その他	△44	△187
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,364	△33,132
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	286	△1,284
長期借入れによる収入	—	2,574
配当金の支払額	△3,859	△3,859
少数株主への配当金の支払額	△5	△13
その他	△20	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,598	△2,590
現金及び現金同等物に係る換算差額	△607	△513
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,684	△10,023
現金及び現金同等物の期首残高	67,461	67,198
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	5,983
現金及び現金同等物の四半期末残高	64,776	63,157

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (6) セグメント情報等

## I 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	エラストマー 事業 (百万円)	合成樹脂事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高						
外部顧客への売上高	96,007	25,760	60,807	182,574	—	182,574
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,154	—	—	3,154	△3,154	—
計	99,161	25,760	60,807	185,729	△3,154	182,574
セグメント利益(営業利益)	7,849	1,433	7,774	17,057	—	17,057

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

## II 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	エラストマー 事業 (百万円)	合成樹脂事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高						
外部顧客への売上高	86,223	23,861	60,256	170,341	—	170,341
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,762	—	—	2,762	△2,762	—
計	88,985	23,861	60,256	173,103	△2,762	170,341
セグメント利益(営業利益)	10,391	577	8,499	19,468	—	19,468

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。